

巻 頭 言

近頃思うこと

愛知県小児科医会副会長
深田 昭彦

あれほど厳重に警戒し、チェックをしたにも関わらずあっという間に日本全土に広まった新型インフルエンザはどこへ行ったのだろうか。今、私の診療所はあの騒ぎは何だったのかというほど暇である。

昨年の流行初期の頃は発熱患者が来院すると物々しい格好で駐車場まで出て行き、車のウィンドウを少しだけ開けて貰い、恐る恐る検査したものだ。また、学校、保育園、幼稚園の先生方も、園児や生徒が鼻水が出ている程度でも、検査して貰うまで出てくるな！と言ひ、迅速試験が陽性に出ようものなら、健康な父親も会社へ行けず、母親はパートに出られず、兄弟も登校できず、周囲からは白い目で見られ、買い物なんかどうしているのだろうかかと心配になるほどだった。私たち医療関係者も、もし発病すればどんな目に遭うか戦々恐々としていた。でも、新型インフルエンザワクチンが出来るまで何とか蔓延をくい止めようと努力したのだが、それをあざ笑うかのように日本全土に広まってしまった。しかもワクチンの出荷は遅れに遅れた。年が明け、さしもの流行も下火になった頃、どっと出回ったが、もう誰も見向きもしなかった。特にマスコミに副反応が出るのではと指摘された外国産ワクチンは1億人分近く輸入したようだが、ほとんど使われていないと思われる。もったいない話だ。

今度の流行には反省点は多々あり、今後の課題として議論されねばならないが、強毒インフルエンザの予行演習というにはあまりにも大きな損失である。

それはさておき、今回の季節性及び新型インフルエンザワクチン接種に小児科医、内科医のみならず耳鼻科医、皮膚科医、整形外科医まで参加してきた。しかも、季節性インフルエンザワクチンなどはかなりの低価格で行っているところもある。「私たち夫婦割引を使い2人で2500円で接種してきました。何でこの子は量も少ないのに私たち二人より高いのですか？」と言われたことがある。私たち小児科医が苦勞して育んできた予防接種の制度が崩れかけて

いる。そしてそれがHibワクチンや肺炎球菌ワクチンにも波及している。特にHibワクチンは絶対量が少ないため、納入が1診療所に月何本と定められているので、需要の多い小児科では数ヶ月待ちになっており、需要の少ない整形外科の方が待たずに接種して貰えるという不思議な現象が起きている。さらに、それを低価格で行うと将来公費負担になったときにもその価格で押さえられてしまうし、現在行われている定期予防接種にも影響が出る可能性がある。予防接種を各科の草刈り場にしてはならない。そうなった時、小児科医が被るダメージは計り知れないものがある。そうして小児科医になりたいと思う若者は益々減ってしまうのではないだろうか。